

## Trends & Forecast

世界の半導体市場は2023年年末から成長を再開、人工知能(AI)チップのエヌビディアの躍進がけん引した。今年もこの傾向が持続、さらに7月には「パリオリンピック」、11月には「米大統領選挙」があり、ビッグイベントとともに半導体の景気サイクルはピークに達する。ただしウクライナや中東の紛争の負の影響がどの程度か、不確定要因が存在する。

## Trade & Asian Dynamics

世界の半導体の中心市場である中国は、主力分野のスマートフォン、パソコンの停滞が続行している。EV(電気自動車)は、昨年前年比倍増近い大きな伸びだったが、競争は激化しており、とくに価格競争が熾烈になっている。今年は、政府の奨励策、補助金など普及促進策が成長に大きな影響を与えそう。

## Company & Competitiveness

世界主要半導体企業39社(ファウンドリを除く)の23年第4四半期業績は総計で売上では前四半期比11.2%、前年同期比18.6%それぞれ増だった。利益は同様な比較で57.5%および83.7%それぞれ増、総計の利益率は18.8%と前期の13.5%から増加した。エヌビディアは売上高、利益額、利益率、売上伸び率すべての比較で39社中トップを3期連続で確保した。

## Market & End user

AI市場では、プロセッサ(GPU)と一体化して使われる高帯域(HBM)DRAMが伸びている。AI関連はブームの様相だが、半導体市場全体への波及は徐々に進むとみられる。AIの利用は多分野におよびヒット商品が登場、それらの積み重ねにより、市場は拡大しよう。

## Conclusion

24年の焦点は世界的には、オリンピックおよび米大統領選に関連した需要喚起、景気維持および刺激策がどのように半導体需要につながるか。大市場のスマートフォン、パソコンは成熟化し市場は停滞していたが、AIの活用などにより活気を取り戻す可能性がある。

23年に拡大した車用は、世界的にEVの成長鈍化の一方、ハイブリッド車の需要拡大に変化、関連半導体の全体需要の伸びは鈍化、また、産業機器向けの需要も停滞傾向にあり、市場拡大の重しになっている。

## 主な内容

- ・ 「エヌビディア効果」による増減効果と予測
- ・ 世界の半導体出荷、四半期毎の増減予測
- ・ 世界主要半導体企業44社、23年第4四半期業績集計とランキング  
(売上、利益額、利益率、売上伸び率それぞれ上位25社)
- ・ 半導体の需要分野の国内生産推移と24年予想
- ・ 予測結果

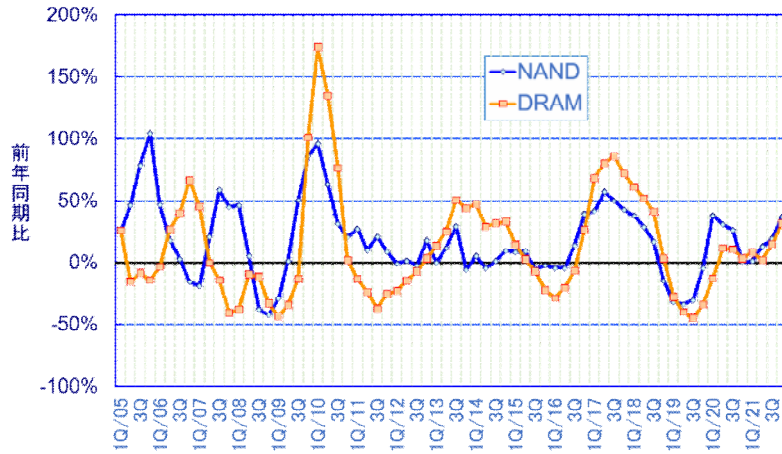
3ページ目に予測の主要指標、最終ページに定義を掲載しております

文字の色が赤い部分をクリックして右クリックしてリンクを開くと対応したページに移動します

# 予測の主要指標について

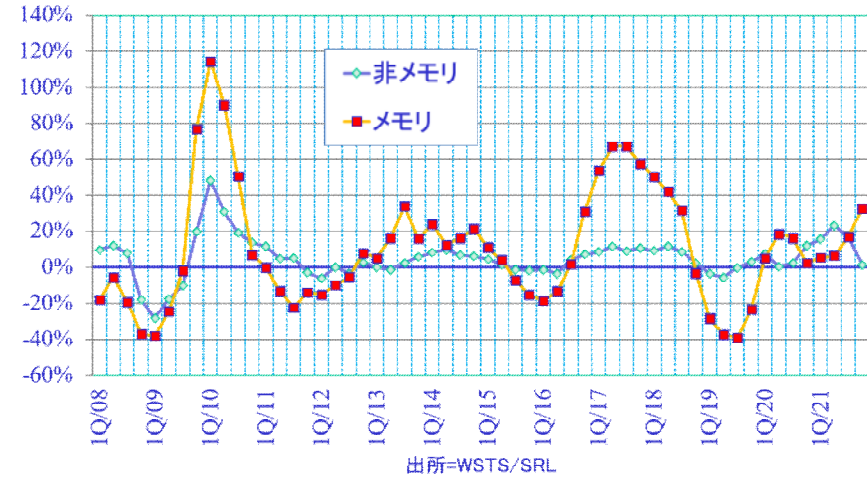
以下の4点の図は、本誌の分析、予測の基本的な要素を示している。長期的な視点での変化とその要因、それを踏まえての短期的な傾向と新たな変化を捉えようとしている。

NANDとDRAMの世界出荷 実績と予測



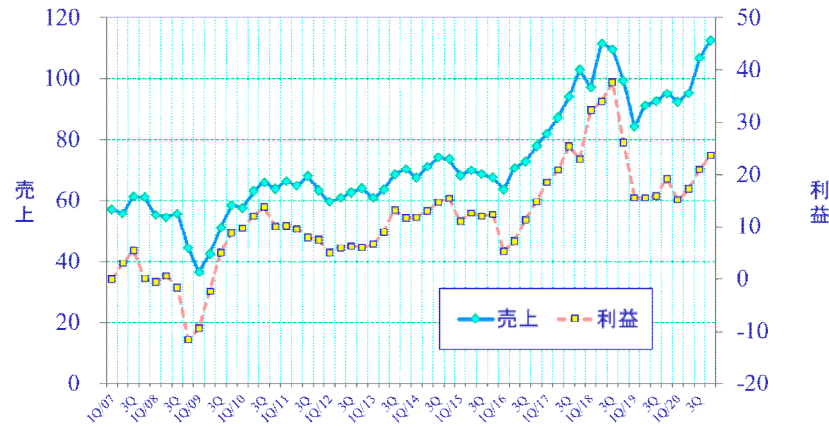
21年はSRL予想 出所=WSTS/SRL

前年比増減の推移



出所=WSTS/SRL

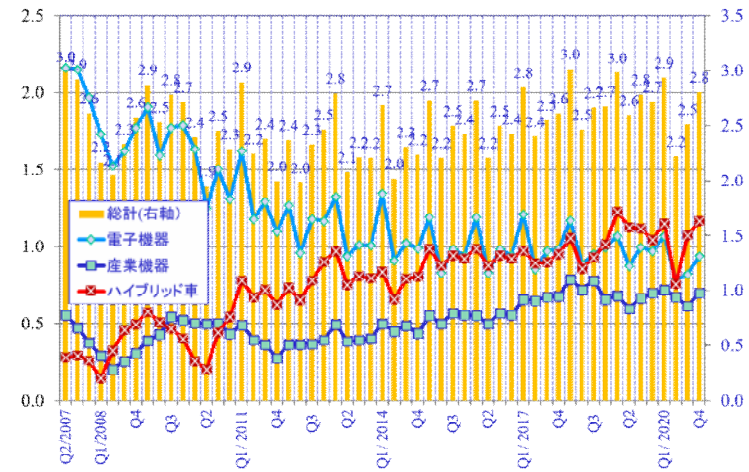
世界主要半導体企業の業績推移  
単位=10億ドル



注: M&Aなどにより集計企業数は変化、図は集計対象の全体傾向を示す

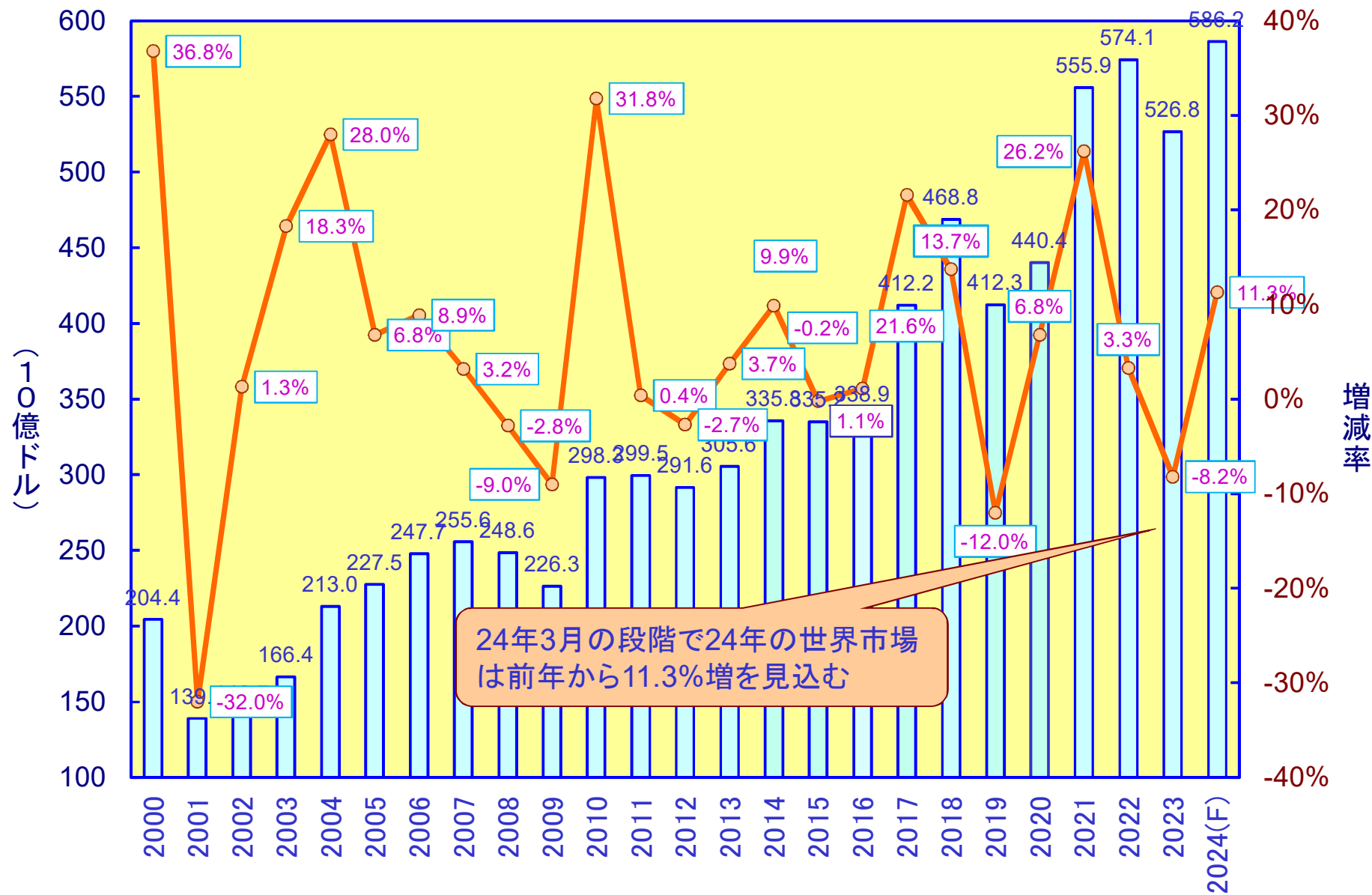
生産額:兆円

主要市場の国内生産推移



出所=生産統計/SRL

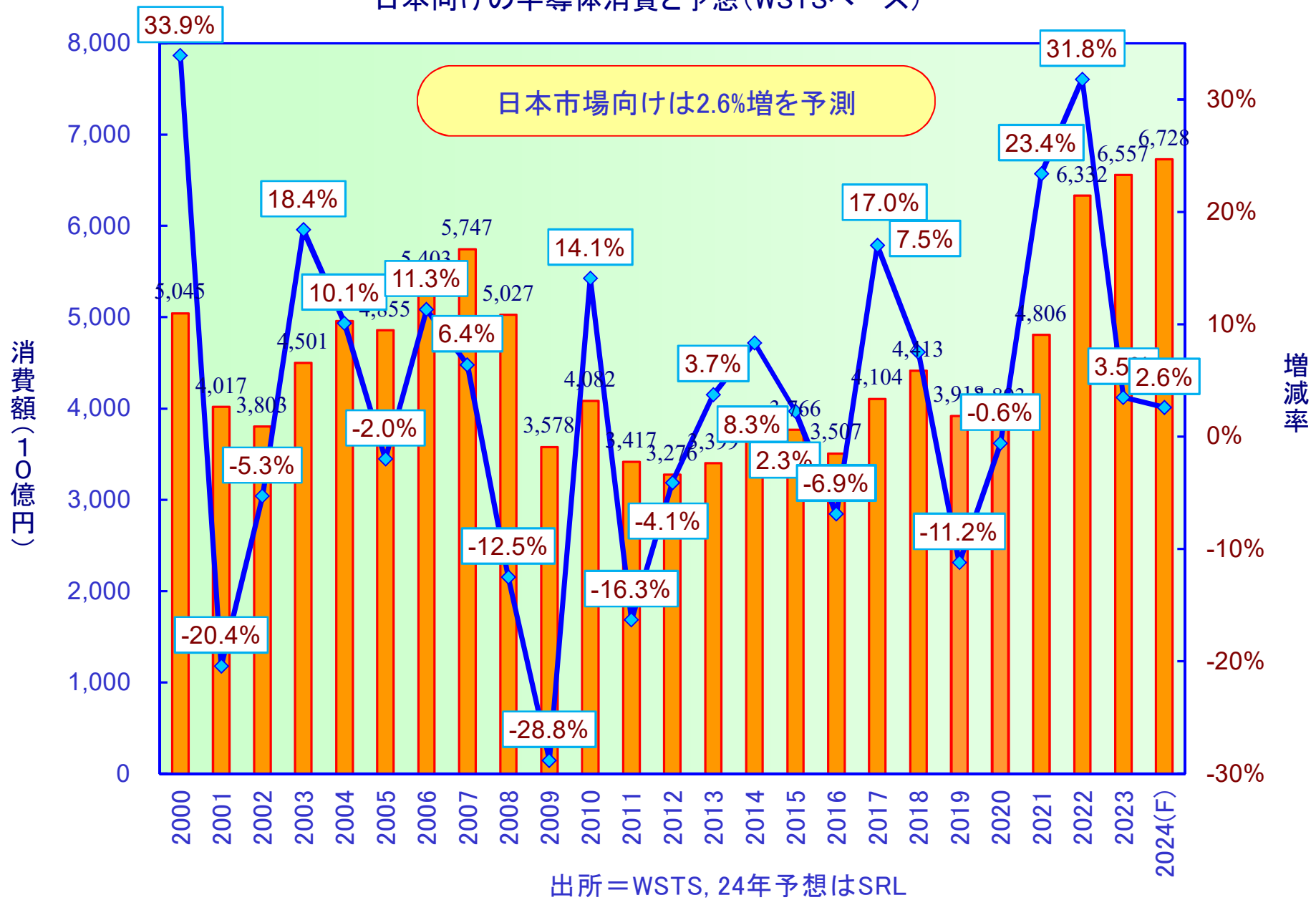
# 世界の半導体市場、2024年予想



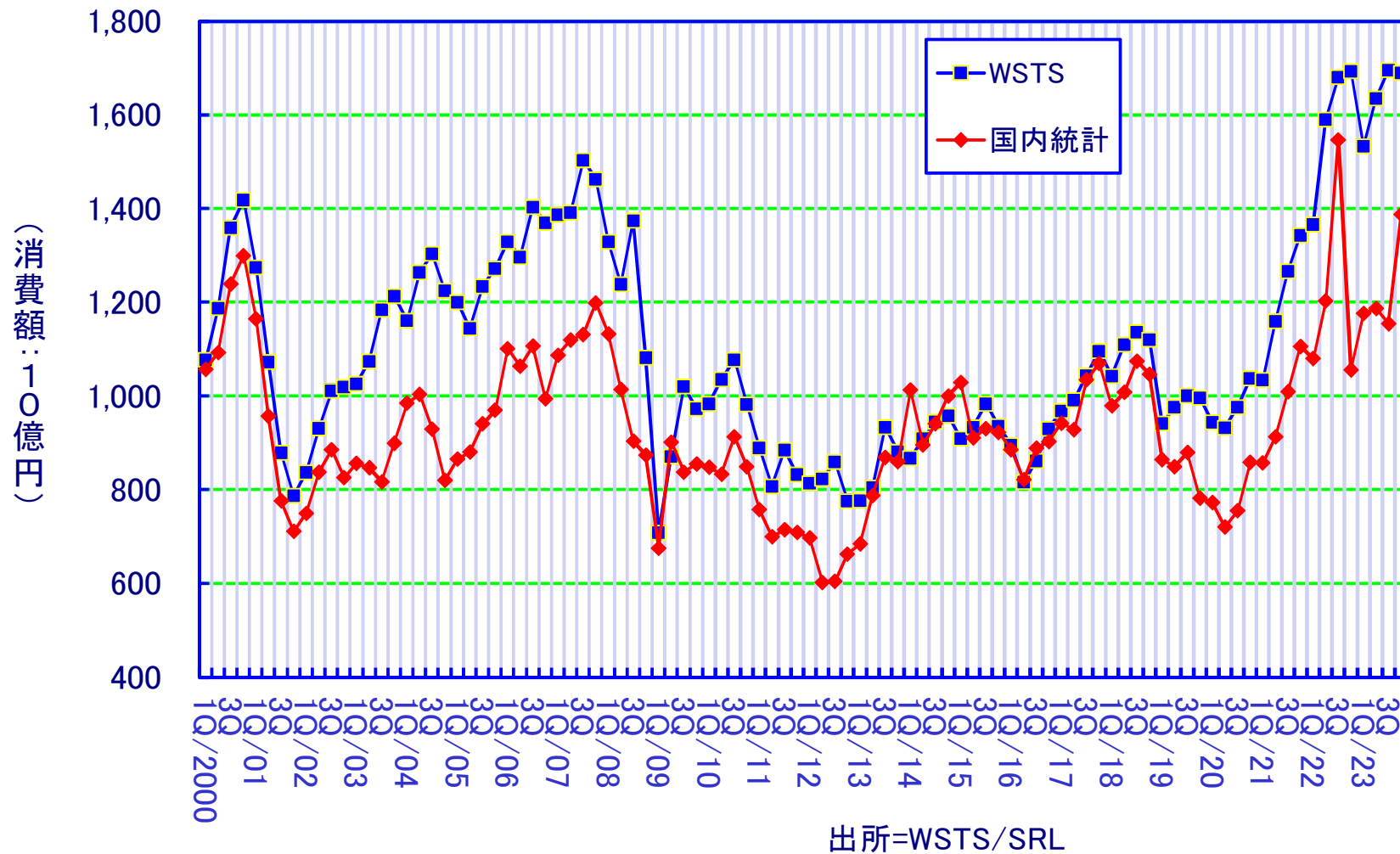
24年3月の段階で24年の世界市場は前年から11.3%増を見込む

出所=WSTS/SRL

# 日本向けの半導体消費と予想 (WSTSベース)



## 国内統計とWSTS



WSTSの「日本向け」と国内統計による「内需(=生産-輸出+輸入)」を示す。傾向はほぼ同じだが、2002年から2008年まで間は差が増大。これは日系機器メーカーが海外生産を拡大した結果ともみられる。最近は、差は少なく、比較は今後も続ける。



# SRL Quarterly Forecast

## 予測手法について

予測は、10年間あるいは20年間のデータベースを基本にした長期傾向、季節変動に代表される短期傾向、それからいくつかの先行指標を用いた方法を混在させて行っております。この方法は半導体産業の規模が大きくなり、かつ信頼される統計その他の情報の蓄積が進むほど予測精度は高まります。ただし、既存の傾向に含まれない突発的な出来事(戦争、地震等)が発生した場合を除きます。傾向と先行指標から判断する方法は、もう一方の代表的な予測方法であります市場関係者への聞き取りやアンケート集計と異なり、人為的にもたらされる過剰な期待やその逆の過度な弱さを排除できる特徴があります。本誌では、図を多様して予測説明を行っておりますので、傾向や転換点就容易に理解できます。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。  
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報をSRLの解釈と分析で表現したものです。  
2024年 著作権所有 株式会社SRL (半導体総合研究所)

## 定義と説明

- 1) 国内統計: 生産は経済産業省機械統計で、最新値は速報値。輸出、輸入は財務省通関統計を使用。生産は社内使用や自社目的のみに生産された分を含む。輸出はFOB(輸出港渡し条件)、輸入はCIF(運賃保険料込港渡し条件)、非実装品は輸出、輸入に含まず、「非実装輸出」で別個に扱う。  
図中、「消費は調整前」とあるのは、推定消費: 生産-輸出+輸入で計算。この計算式では在庫の増減で消費される時期が前後するが、調整前の場合は、上記計算を適用。
- 2) 国際統計: 世界半導体市場統計(WSTS=World Semiconductor Trade Statistics), 米半導体工業会(Semiconductor Industry Association)  
韓国税関サービス(Korea Customs Service), 台湾(Taiwan Directorate General of Customs), 中国税関(China Customs), 香港政府統計處(Hong Kong Census and Statistics Department)など。関税分類の個別半導体およびオプト製品(8541-XX-XXX)、集積回路(8542-XX-XXX)で定義された全ての半導体の貿易額を使用している。これらのなかには処理済ウエハーや部分品も含まれ、要するに半導体全体である(本誌の半導体貿易は原則完成品を対象とし、それ以外の場合は定義をその都度説明している)。
- 3) 企業情報: 原則として企業が外部に公表した決算資料の数字を利用している。日系企業では、営業利益を公開しない例もあるが、その場合は本誌の推定値を使用している

2024年3月 (年4回発行) 第33巻1号 (通巻129号)  
発行元 /株式会社SRL  
〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67  
TEL 042(318)7729  
編集・発行人: 大竹 修

SRL Quarterly Forecast March 2024, No. 129  
Semicon Research Ltd. [www.semiconresearch.co.jp](http://www.semiconresearch.co.jp) [info@semiconresearch.co.jp](mailto:info@semiconresearch.co.jp)  
2-865-67 Suzuki-cho Kodaira -City.  
Tokyo 187-0011 Japan  
Publisher/Editor : Osamu Ohtake

© SRL 2024

購読料金1年分 (4号) 60,000円 (税別)